

第55期 事業報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

公益財団法人 札幌交響楽団

公益財団法人札幌交響楽団は、定款第2章第3条に基づき、交響管弦楽による音楽芸術の普及向上に関し、必要な事業を行い、もって札幌市及び北海道における文化と教育の振興に寄与することを目的とする事業を行った。

定款第2章第4条に掲げる事業を次のように行った。

平成26年度のオーケストラによる公演

(1) 札幌交響楽団を編成し、及び維持すること。

1. 評議員、役員等及び事務局

評議員21名、理事19名、監事2名、事務局員14名

2. 交響楽団の編成

音楽監督、首席客演指揮者 各1名、楽団員76名（平成27年3月末日現在）

ステージスタッフ、ライブラリアン及びパーソネルマネージャー 計5名

3. 音楽監督、首席客演指揮者及び楽団員は、次の回数の公演に出演し練習に従事した。

音楽監督 出演回数 22回、練習日数 18日

首席客演指揮者 出演回数 5回、練習日数 8日

交響楽団としての出演回数は合計122回、練習日数102日

この他小編成による教育や福祉関係の活動54回

なお交響楽団として移動日も含めての稼働日数は229日（台湾公演を除く）

(2) 交響管弦楽の演奏を行うこと。

1. 自主公演

【定期演奏会】

平成26年4月から平成27年2月までに1プログラムにつき2回ずつの公演を実施、計20公演実施した。

定期演奏会は札幌交響楽団の活動の主軸になる公演。尾高が3回計6公演、エリシュカが2回計4公演を指揮した。

【名曲シリーズ】

名曲シリーズは平成26年5月から平成27年2月までに5公演実施した。

【特別演奏会】

札幌市内で9公演、北海道内地方で7公演、道外では東京で1公演、計17公演実施した。

○札幌市内公演

- | | | |
|------|--------------------------|-------|
| 1. | アキラさんのモダンコンサート2014 | 4月26日 |
| 2. | 札幌シンフォニック・ブラス | 5月10日 |
| 3. 4 | 札幌ポップス・コンサート Vol.12（2公演） | 7月23日 |
| 5. | 夏の特別演奏会「協奏曲の夜」 | 7月28日 |

6. 7 アキラさんの大発見コンサート2014 (2公演) 8月9日

8. 9 札幌の第9 (2公演) 12月27日、28日

○北海道内地方公演

札幌交響楽団は北海道内各地に優れた演奏を届けることが重大な使命であると考え、平成26年度は自主・依頼公演、音楽教室合わせ道内35公演を実施。

北海道内地方公演－自主公演分

1. 伊達市公演 4月27日

2. 深川市公演 6月20日

3. 七飯町公演 7月19日

4. 夕張市公演 8月24日

5. 清水町公演 12月3日

6. 小樽市公演 1月24日

7. 浦河町公演 2月3日

○東京公演 (ホクレン・クラシック・スペシャル2015) 2月17日

尾高の指揮で「シベリウス交響曲シリーズ」の第3弾として交響曲第5、6、7番を演奏、好評を博した。尾高の音楽監督としての日本での最後の公演となった。

2. 依頼公演

各種団体、企業、自治体などが主催する演奏会に依頼に応じて出演。(計37回)

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・22回

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・15回

北海道新聞社、北海道電力、北洋銀行、札幌市芸術文化財団(キタラ)、北海道公立学校教職員互助会、札幌中小企業共済センター、北海道銀行をはじめ多くの企業、自治体の支援を受けて開催。

(3) 青少年の音楽鑑賞及び演奏に関し、指導を行い、その普及を図ること。

オーケストラによる音楽教室を次のとおり開催。(計43回)

○札幌市内公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・17回

○北海道内地方公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・13回

○北海道外公演・・・・・・・・・・・・・・・・・・13回

北海道外公演は、文化庁からの依頼により岐阜、長野、愛知、静岡、神奈川県で公演を行った。

楽団員によるワークショップ(体験型音楽教室)では、小学生と音楽を通して交流を深め、鑑賞するだけでなく演奏に参加して得られる感動も広めることができた。(計27回)

○ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・21回

○楽器講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・6回

(4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

1) 広報宣伝

○プログラムの発行

定期演奏会ははじめ自主公演では毎回、音楽評論家等による研究論文、楽曲解説、楽団の活動報告、楽団員紹介を載せたプログラムを発行、公演来場者及び会員、関係先に配布。

○ニュースレターの発行

札幌交響楽団の活動報告、公演案内など、最新情報を掲載したニュースレターを年に4回発行。

○ホームページによる広報

札幌交響楽団の最新情報を掲載し、チケット予約を受け付けるほか、定期会員・パトローネージュ会員の入会案内を行った。また、フェイスブックを用いて随時情報提供を行った。

2) その他の公演事業

○アンサンブル（17回）

コンサートホール以外の様々な場所でも演奏することによって、クラシック音楽に接する機会が少ない方にも札幌の存在をアピールした。

○慰問演奏（10回）

特別支援学校、老人ホーム、障害者施設などに楽団員が出向き、コンサートに出かけることのできない方々に音楽鑑賞の機会を提供、社会貢献活動を行なった。

3) 記録の整理と活用（周年事業）

○記録録音

札幌の演奏録音、録画を整理、永久保存を継続して行った。

○記録資料

資料文書を整理、演奏記録のデータベース化を図っている。

4) 台湾公演の実施（周年事業）

55周年、60周年を見据えて、長期的に札幌交響楽団の発展を図るため、海外（台湾）でも演奏を披露した。

1. 台北公演 3月22日

2. 台北・静修女子高級中学校内鑑賞会 3月23日

3. 高雄・国立中山大学鑑賞会 3月25日

4. 台中公演 3月27日

5. 台南公演 3月28日

台湾での5公演を成功させることができた。尾高の音楽監督としての最後の指揮、札幌出身の若手ヴァイオリニスト成田達輝の独奏で演奏、各地で熱狂的な喝采となり、札幌が今や日本を代表するオーケストラに成長したことを証明した。（別紙報告書参照）

5)「シベリウス交響曲全集」の演奏CD化

平成24年度から3年間かけて北欧の大作曲家シベリウスの7曲の交響曲を「定期演奏会」で演奏、録音し、CD4枚からなる「シベリウス交響曲全集」を制作した。26年度はその第3弾、集大成として「第5番」、「第6番」、「第7番」を演奏、録音した。この交響曲全集の完成する年、平成27年はシベリウス生誕150周年で、それを記念した事業でもあった。

札幌交響楽団 平成26年度活動報告

平成27年4月30日作成

公益財団法人 札幌交響楽団

札幌市中央区中島公園1-15

札幌コンサートホール内

<http://www.sso.or.jp>

札幌交響楽団の活動

オーケストラ演奏会 計122公演

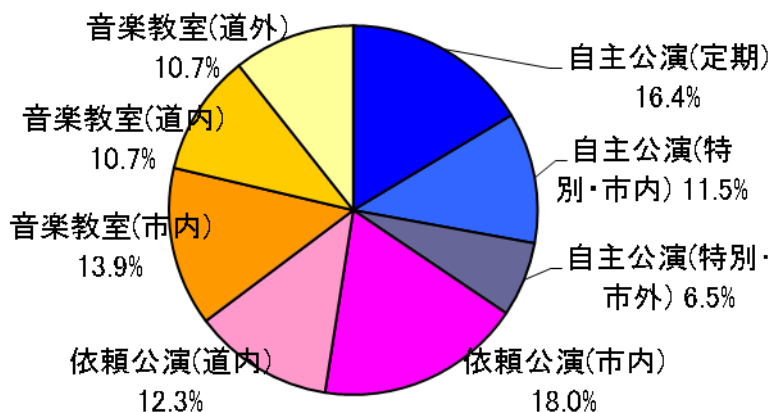
■ 自主公演(42公演)

定期演奏会(札幌市内)	20公演
札幌市内	14公演
北海道内	7公演
北海道外	1公演

■ 依頼公演(37公演)

■ 音楽教室(43公演)

平成26年度演奏会内訳



教育・地域活動、アンサンブル演奏 計 54公演

総計176公演

自主公演 札幌が主催する演奏会です。

■ 定期演奏会 年10回 20公演

■ 札幌市内公演 年14公演

札幌名曲シリーズ(5公演)

アキラさん(宮川彬良)のコンサート
(モダンコンサート,大発見コンサート2公演)

札幌シンフォニック・ブラス

札幌ポップスコンサートvol.12(2公演)

札幌夏の特別演奏会「協奏曲の夜」

札幌の第9(2公演)



■ 北海道内公演 年7公演

伊達公演

(アキラさんのモダンコンサート道内公演)

深川、七飯、清水、浦河公演

夕張公演(萬田記念財団 協賛公演)

札幌ニューイヤークンサートin小樽

尾高音楽監督の退任が決まりラストシーズンとなった今年度は、第9、名曲、定期演奏会と年度末に近づくにつれ来場者が増え、フィナーレにはKitaraいっぱい大きな拍手が響きました。続く東京公演でも、楽団が一体となった熱のこもった名演に多くのファンが名残を惜しんでいました。

昨年に引き続き、札幌の道内公演を支援する(公財)萬田記念財団の協賛による演奏会を夕張市で開催しました。

■ 北海道外公演 年1公演

東京公演2015



依頼公演

企業、自治体などの依頼 で演奏会を提供しました。

■ 札幌市内公演

全22公演

Kitara主催(3公演)、さぽーとさっぽろ、PMF、友の会、ロジネット、道銀、北洋、北電、HBA、さっしん、999人の第九、JAF、HTB、日演連、が例年通りに開催。

また前年度に続き、あいぷらん、パナソニック(宮崎陽江)が演奏会を開催した。

さらに、さぽーとさっぽろ(サマーコンサート)、エルム楽器、北海道二期会の周年記念公演に出演機会があった。



尾高忠明指揮でPMF2014ピクニックコンサート。
監督として最後のPMF出演は、ひとつの区切りとなる演奏会にもなりました。

■ 道内各地の公演

全15公演

北海道新聞社との共催 5公演

(稚内、釧路、岩見沢、北広島、栗山)

ほくでんファミリーコンサート 5公演

(別海、仁木、興部、八雲、洞爺)

北海道公立学校教職員互助会公演 2公演

(上士幌、赤平)

北洋銀行コンサート(帯広)

クロネコファミリーコンサート(苫小牧)

ホクレングリーンコンサート(岩見沢)



町制施行60周年の上士幌町では、昼間に青少年対象のジュニアクラシック、夜に一般公演と、2公演を開催いただきました。

音楽教室

青少年向けに音楽の楽しさを伝えました。

■ Kitaraファーストコンサート / 広域圏ジュニアクラシック

札幌市主催による札幌市内の全小学6年生を対象としたKitaraファーストコンサートは、事業開始から10年を迎えた。

平成26年度もKitaraファーストコンサート全9公演と札幌市広域圏組合主催による近隣市町の小学生を対象とした広域圏ジュニアクラシックコンサート2公演を開催。



■ ジュニアクラシック

北海道新聞社などの助成をもとに道内各地で開催のジュニアクラシックコンサートは、継続開催している旭川、登別、恵庭、苫小牧、小樽、音更、帯広に加え、新たに上士幌、幕別、黒松内、妹背牛、安平においても開催。

そのほか、Kitaraなどを会場に6校の高校の鑑賞教室を開催。



■ 文化庁主催・文化芸術による子供の育成事業(巡回公演)

文化庁主催により岐阜、長野、愛知、静岡、神奈川の5県の学校13校を訪問。

教育・地域活動、 アンサンブル演奏会



公立特別支援学校や各地の福祉施設での訪問演奏を年間10回実施、道内演奏会の機会に各地でも展開しました。



ドレミの箱音楽教室など、吹奏楽に親しむ中高生を中心に、楽器の指導を行うクリニックを引き続き道内各地で開催しました。



小学校を訪問して実施する創造体験授業は(ワークショップ)は、子どもたちとコミュニケーションをとるために、楽団員が用意する様々な工夫で、参加者ならびに先生たちの好評を得ています。



病院、福祉施設などを訪問するアウトリーチ活動

については、北海道新聞社(社会福祉振興基金)、タナカメディカルグループ、新和グループほかパトロネージュ各社・団体の支援も受けながら実施を拡げています。

60周年に向かって ひとつの時代の総括と新しい展開へ

● 尾高音楽監督の任期満了退任

2015年3月、尾高忠明音楽監督が任期満了をもって退任しました。尾高監督は1981年から5年間、岩城音楽監督のもと正指揮者を務め、1998年にミュージック・アドバイザー/常任指揮者として復帰、その後2004年に音楽監督に就任し、通算22年間にわたって札幌交響楽団を率いました。在任中、最後となった台湾公演ツアーの成功は、演奏レベルの向上と道内公演の充実を図り、海外公演、レコーディングに積極的に取り組むことで札幌の名を世界に広くひろげていった尾高監督らしいフィナーレとなりました。※台湾公演については、別紙報告書で詳しく説明しています。



↑Kitara最終公演終演時に村田理事長から花束を贈呈しました。

←台湾公演の最終公演を終えた監督は楽団に挨拶し、コンサートマスター伊藤亮太郎と握手をかわしました。

● 次期指揮者として マックス・ポンマーと契約締結



←昨年7月に契約締結し、上田札幌市長、山谷北海道副知事への挨拶をおこないました。

平成27年度から札幌交響楽団を率いる首席指揮者としてドイツの巨匠マックス・ポンマーと3年契約を締結しました。就任記者会見では、Kitaraでの主催演奏会に限らず、道内公演、青少年向け演奏会にも意欲を示しました。就任記念演奏会は7月の定期演奏会、その後、小樽、陸別、豊頃への道内演奏旅行に出演。年末の第9の指揮ほかを予定しています。

● シベリウス交響曲シリーズ の完結と記録録音のデジタル化

3年にわたって取り組んできた尾高指揮シベリウス交響曲シリーズのレコーディングは、2月に全曲が完了しました。CD化されていない第4番～第7番を2枚のCDに分けて、今年の夏と秋に発売予定です。

また、50周年記念事業として着手した、第1回定期演奏会以降の録音資料の保存作業は、オープンリールテープのデジタル化作業を引き続き進めています。DATテープに保存された記録録音も、より保存性の高いディスクへの変換作業を進めています。

★ 世代交代をみすえ、新しい会員制度を

創立から半世紀をこえ、定期会員を中心に世代交代を円滑に進めることが課題となっています。若い年代の会員を増やすためには、ライフスタイルにあわせた鑑賞機会の提供や、フレキシブルな会員制度も必要との考えから、平成27年度から定期、パトロネージュともに新たな会員のシステムをスタートさせることとし、その準備を始めました。

札幌交響楽団台湾公演 2015 年 3 月 21 日～3 月 30 日

「台灣感恩之旅」

2011 年 3 月の東日本大震災で、世界で最も多額の寄付を日本に寄せてくれたのは台湾でした。札幌交響楽団は、その支援へのお礼の気持ちをこめて今回の演奏旅行を「台灣感恩之旅」と銘打ちました。北海道を訪れる外国人観光客も台湾人が一番多く、これからの日台関係を文化交流を柱に、より深めることを願った演奏旅行でした。

札幌交響楽団の村田理事長はじめ総勢約 100 人は、平成 27 年 3 月 21 日に札幌を出発、台北、高雄、台中、台南の 4 都市で 5 公演開催、30 日に帰国しました。指揮者はこの公演を最後に札幌交響楽団の音楽監督を退任する尾高忠明、独奏者は今最も注目されている札幌出身の若手ヴァイオリニスト成田達輝。

3 月 22 日 台北公演 國家音樂廳 入場者数 1,800 名(2,064 席)

台湾最初の公演は台湾最高のコンサートホール 國家音樂廳で開催、この公演のチケットは早くから完売、満員のお客様を前に演奏しました。成田の独奏によるメンデルスゾーンや尾高の十八番のラフマニノフは聴衆から熱狂的な喝采を呼び起こしました。尾高は英語で「皆さんの東日本大震災への支援に感謝するためにやってきました」とあいさつ、鳴り止まない拍手にこたえアンコールに台湾民謡を演奏すると更に聴衆は盛り上がりました。終演後はロビーで尾高と成田はサイン会を行い、1 時間以上もかけて台湾の方々と温かい交流を持ちました。



武満徹／死と再生 ～『黒い雨』より～
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲

独奏：成田達輝

(アンコール：パガニーニ／カプリース第 24 番
ラフマニノフ／交響曲第 2 番

(アンコール：渡辺俊幸編／台湾民謡「望春風」)



リハーサル風景



尾高監督と成田達輝



台北公演終了後、國家音樂廳ロビーでは
サイン会を開催しました。



静修女子中学外観

3月23日 台北 私立静修女子高級中学校内鑑賞会 入場者数 3,000 名(2,300 席)

海外においてオーケストラが教育施設内で鑑賞会を開催することは大変珍しいことです。台北市内の私立静修女子高級中学は戦前の日本統治時代からある歴史ある学校で、創立当初、校長は日本人が歴任したといえます。地下2階の2,300席を擁する大きな講堂では約3,000人の生徒、職員を前に台湾語による解説を交えて、台湾の中高生たちと親密な雰囲気の中での演奏会となりました。演奏中の集中力の高い静かな鑑賞態度と演奏後の熱狂的な拍手と歓声との違いは驚くばかりで、楽団員の心にも響くものとなりました。鑑賞会の最後に尾高は通訳を通じて子供たちに「ぜひ日本へ、北海道へ遊びに来てください」と話しかけました。



楽器紹介の様子



会場は 3,000 人の生徒で埋まりました

ロッシーニ／「ウィリアム・テル」序曲より“スイス軍の行進”

楽器紹介

山本直純編／日本の歌メドレー

グリーグ／「ペール・ギュント」第 1 組曲

渡辺俊幸編／台湾民謡「望春風」

エルガー／行進曲「威風堂々」第 1 番

(アンコール：J.シュトラウス I 世／ラデツキー行進曲)



中庭の歓迎看板

3 月 25 日 高雄 国立中山大学鑑賞会 逸仙館 入場者数 1,100 名(1,374 席)

台湾南部の大都市高雄の中山大学は風光明媚な自然公園の中にあります。構内にある反響板もある立派なホール逸仙館を会場に今度は大学生を対象にした鑑賞会を開催しました。満員の客席の前に演奏、ここでも台湾語の解説付きで進めました。中学生とは違い、司会の話しかけにすぐ反応がある、明るい雰囲気の中での演奏でした。交響曲の演奏が終わると台北とも違う南国の人々らしい熱い喝采が寄せられ、アンコールで演奏した「ラデツキー行進曲」に合わせて起こった手拍子は凄まじい迫力で、舞台と客席は一体となって大いに盛り上がりました。



開演前の逸仙館前

ロッシーニ／「ウィリアム・テル」序曲より“スイス軍の行進”

山本直純編／日本の歌メドレー

渡辺俊幸編／台湾民謡「望春風」

ドヴォルジャーク／交響曲第 8 番

(アンコール：J.シュトラウス I 世／ラデツキー行進曲)



3月27日 台中公演 中興堂 入場者数 900 名(1,195 席)



ロビー風景

演奏曲目 22 日の台北公演と同じ

台中公演はチケットを一般販売して開催しましたが、客席には若い人もたくさん見られ、広い年齢層の聴衆を集めることができました。特に台中では台湾の少数民族の子供たちを無料招待し大変喜ばれました。台湾の聴衆はどこでも反応が大きく、中でも台中は非常に熱烈で、協奏曲の演奏後、ヴァイオリンの成田はパガニーニのカプリース第 24 番をアンコール演奏しましたが、それでも拍手と歓声がなりやまずカプリース第 1 番をさらに演奏しました。ラフマニノフの後も延々と熱い喝采がやまず、この公演は予定時間を半時間も超えて終わりました。



3月28日 台南公演 台南藝術節戶外慶典 南瀛綠都心公園 入場者数 4,000 名(3,000 席)



リハーサル前



リハーサル風景

台湾公演の最後を飾る台南では、台南藝術節という音楽祭の一環で大規模な野外コンサートとして開催しました。台南市郊外の大きな公園に特設舞台が作られ、その前に 3,000 席の客席が並べられました。午後 6 時の開場と同時に続々と人々が集まり、開演時間の午後 7 時にはほぼ満席、座席に座れない人たちは周囲の公園敷地から立ったまま、あるいは地面に座りこんだりしながら思い思いに演奏を楽しみました。開演前の主催者による歓迎の挨拶の際、北海道からの応援にかけつけたお客様 29 人が紹介されると、大きな拍手が湧き起りました。演奏中、これだけの大勢の人々が静かに鑑賞している様子は印象的でした。そして音楽が終わる度の歓声は、「祭り」的な解放感に溢れていました。特に終演後の客席は総立ちになり、喝采は楽団員が去るまで延々と続き、台湾公演の締め括りに相応しい風景となりました。



ロッシーニ／「ウィリアム・テル」序曲より“スイス軍の行進”

ベートーヴェン／ロマンス第2番 独奏：成田達輝

山本直純編／日本の歌メドレー

エルガー／愛の挨拶 独奏：成田達輝

サラサーテ／ツィゴイネルワイゼン 独奏：成田達輝

渡辺俊幸編／台湾民謡「望春風」

ドヴォルジャーク／交響曲第8番

(アンコール：J.シュトラウスⅠ世／ラデツキー行進曲)

